

## 1 受賞団体・個人の名称

ふくづのうえん まつざわまさみつ  
 福津農園 松沢政満（愛知県新城市）



（問い合わせ先）

電話：(0536)26-0683

（経歴）

昭和59年にUターン就農し、地域の先駆けとして有機農業を開始。農業の社会的責任を積極的に果たしたいと思い、消費者との交流や体験学習を実施するほか、あいち有機農業推進ネットワークや日本有機農業研究会に役員として参画し、有機農業の推進に尽力。

（受賞時の経営内容） 水稻・野菜・鶏卵等 1.5ha、農家戸数1戸

## 2 生産面の取組

①「土は草でつくる。草は草で、虫は虫で、菌は菌で制御する」という考え方にに基づき、(1)畑では不耕起栽培を原則とする、(2)有機質資材等はすき込まず土壌表面に施用する、(3)野菜や果樹については単一作物の作付けは行わず複数の種類を組み合わせた作付けを行う、(4)立地条件、植生にあった栽培を行う等、総合的に同農園に合った有機栽培技術を組み立て実践。

②雑草や落ち葉を土壌表面に施用するという土づくりを基本とし園内平飼鶏糞を補助的に活用する、オオアカウキクサ(在来種)やイタリアンライグラス等をリビングマルチとして活用する、屑米、米ぬかや販売不適野菜等を鶏などの飼料に利用する、人糞尿も発酵させたものを液肥として利用するなど、外部からの資源やエネルギーの投入を極力減らすとともに、農園内で発生するほとんどの生物資源を循環活用し、農園外に廃棄物を排出しない農法を実践し、資源循環型の体系を確立。



オオアカウキクサのマルチ活用

## 3 経営面の取組

①農産物の販売は朝市や直売・宅配等で、中間マージンはかからないため、松沢氏及び消費者の双方が納得できる価格で販売。生産コストについては、肥料・農薬の購入はなく鶏の餌や種子代等が主な経費であり、農機具も高額なものはないため、ランニングコストや減価償却費は極めて低く、所得率は概ね80%である。

②「雑草」として見過ごされてきた農作物を、その調理法とセットで消費者に伝えることで、人気農産物として定着させている。

## 4 取組の成果

①外部からの資源やエネルギーの投入を極力減らし、農園内の有機質資源を循環させる栽培体系を確立。

②交流を通じて得た消費者との信頼関係を背景に、農業・農産物に対する価値観を共有する消費者に支えられた農業経営を確立。

③有機農業を志す若者の研修を受け入れ、これまでに3名就農。新規参入にあたり、集落リーダーや農業委員と連携し、遊休化した農地を確保。

## 5 地域社会への貢献

①朝市での販売を通じて、都市部の消費者との交流を深めてきた。また、自らの農園を開放し、多様な生物が生きる豊かな自然を求めて、多くの消費者が農園を訪れている（年間約1,000人）。

②全国的な有機農業者のリーダーとして、研修会や体験学習などの活動により、有機農業を一般消費者まで幅広く紹介し、有機農業を身近なものとして認知させ、有機農業の推進に貢献している。

③福津農園の水田、畑に隣接した沢筋の草刈りや河床を保全することで、農業用水やホタルなどの自然環境を守っている。



地元小学生の農作業体験学習